3-O-1

基盤教育における論理的文章表現力向上への取り組み

山下敦子[1)]

専門的職業人を育成する本学において、論理的な文章の読解力と表現力は卒業後にも必要な力であり、その力の育成は喫緊の課題である。初年次教育において論理的な文章を読み解くことや、筋道の通った文章を書くことは、大学での学びの礎になるだけでなく思考力、判断力の育成にもつながる重要な学修活動である。

本発表では、基盤教育「まなぶる　ときわびとⅠ」における「レポートの書き方を学ぶ①～④」の意義と内容を報告する。

授業では、論理的に思考し表現することに主眼を置く。まず、自分の立場を明らかにし、結論を明確にすることから始める。次に、その結論に至るまでの道筋を、根拠を挙げ論理的に説明できるようにする。その過程でグループディスカッションを取り入れ、テーマを多面的に考え、評価する活動も取り入れている。

2017 年度の受講者アンケートでは「まなぶるで取り組んだ活動の中で、最も学びを実感したものは」の設問に対し、71％の学生が「文章作成のトレーニング」と回答した。こうしたことから、基盤教育において全学生対象に文章表現力の育成に取り組むことは、大学での学びの基礎として有意義であると考える。

1）教育学部こども教育学科